

「豊田自動織機」

# 小田将矢

(400mハードル)



1995年生まれ、名古屋市出身。滝高校、名古屋大、名古屋大大学院を経て、令和2年より豊田自動織機で活動している。

## 無名だった中高生時代

中学生の時から本格的に陸上を始めた小田選手。当時は100m、110mハードルの選手でしたが、県大会予選に出場するレベルで、全国には全く手が届かなかった無名選手でした。高校から110mハードルに加え、400mハードルを始めると、高校2・3年生で東海大会に出場するなど、徐々に頭角を現します。高校3年生の時には東海大会で7位となりましたが、全国へ行くことができず、悔しい思いを残したまま高校生活を終えました。

## 憧れだった全国の舞台へ

一般入試を経て名古屋大に進学した小田選手は、「とにかく全国大会に出場したい」との一心で陸上に没頭。努力の末、大学3年生の時に初めて日本選手権大会に出場し、以降大学院2年生まで大会に出場し続けました。めきめきと



初動負荷トレーニング®により、強さとしなやかさを備えている



前半のスピードに加え、後半も走れる体力・技術が強み

力をつけた小田選手は、大学院2年生の時に予選で自己ベスト、翌日の決勝でもまたしても自己ベストを更新し、49・60秒で5位と飛躍を遂げました。一気に日本トップクラスの舞台へ駆け上がった小田選手は、インカレで2位、国体では優勝し、更なる高みを目指して春から豊田自動織機に入社しました。

## 照準は東京五輪

五輪の選考に関わる大会の1つである木南道孝記念陸上競技大会で優勝し、日本グランプリシリーズランキング2位(12月10日時点)につけている小田選手は「今の目標は、選考までに48・50秒を出し、東京五輪で決勝に進出することです」と話します。そして、さらに先へ目を向け、憧れの選手である為末大選手が記録した47・89秒を超え、世界のアスリートたちと戦えるよう日々トレーニングに励んでいます。

# 刈谷から世界へ

市内で活動している若手の日本代表候補選手を紹介します。



## 刈谷で躍動する期待の若手選手



## 強豪「シーホース三河」へ

今年、滋賀レイクスターズからシーホース三河に移籍したシェーファー・アヴィ幸樹選手。移籍してきた時のチームの第一印象は、「プロフェッショナル」。「シーホース三河は、バスケットボールに向き合うことができる素晴らしい環境が揃っていて、選手も全員プロの自覚を持っている部分」が、特に印象的だと言います。

## 5年で日本代表候補へ

今や日本代表候補の実力を持つシェーファー選手ですが、本格的にバスケットを始めたのは、なんと高校2年生のとき。それまでやっていたサッカーに限界を感じていた時に、東京へ引っ越すことになり、転校先のバスケット部から熱烈的な勧誘を受けたことがきっかけだそう。成長著しいシェーファー選手は、バスケットを



憧れのチームダンカン選手のようなプレーヤーを目指す



持ち味はディフェンスの強度と体の強さ

始めて2年後には男子U18日本代表としてアジア選手権大会に出場し、2位となるなど、大きな成長を見せました。そして、バスケットを始めて3年ほど、大学に入学したところから日本代表を意識し始め、2019年には日本代表に選出されました。

## さらなる成長に向けて

「チームとしては、まずリーグ戦で西地区1位を勝ち取る。個人としてはスタートの座を維持して、チームに勢いをつけることです」と目標を語るシェーファー選手。存在感のある選手、チームを勝たせられる選手になることができるよう、試合だけでなく練習から全力で取り組んでいます。練習などのキツさの先に他では経験できない喜びがあり、そんなバスケットが好きだからこそ、現状に満足せず、常に成長することを目指しています。



# シェーファーアヴィ幸樹

「シーホース三河」

(バスケットボール)

1998年生まれ。兵庫県出身。ジョージア工科大学、アルパルク東京、滋賀レイクスターズを経て、2020-21シーズンよりシーホース三河で活動している。  
©SeaHorses MIKAWA co.,LTD.